

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 20 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20530807

研究課題名 (和文) イタリアの学校・社会における舞台表現教育の取り組みと音楽表現の関わりについて

研究課題名 (英文) Research on the Relation between Theater Education (Educazione Teatrale) and Musical Expression in Schools and Society of Italy

研究代表者

中嶋 俊夫 (NAKAJIMA TOSHIO)

横浜国立大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号：70334612

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：イタリア 音楽教育 表現教育 音楽表現 舞台表現教育 テアートルロ教育

1. 研究計画の概要

(1)研究の背景と意義

研究者は実践と研究を通して「音楽的体験を共有する『場』づくり」という視点から、教員養成課程学生と児童たちとの音楽交流活動を推進しながら、音楽表現のあり方について考察してきた。表現・鑑賞の体験は学校内にとどまることなく、幅広い人間関係や活動を通して深められるべきであると考え、人格形成にとって大切な表現力、コミュニケーション能力との関連から音楽の表現活動を捉え直すことに研究の意義を見出した。

(2)研究対象と目的

2000年からイタリアで“autonomia” (自主、独立) という語に象徴される教育改革が進行し、各学校では、地域と連携して独自のカリキュラムによる特色ある教育活動が推進されているが、その中で舞台表現教育 (Educazione Teatrale 以後、「テアートルロ教育」) が活発化している。

一方、イタリアの公教育における音楽教育理念は、音・音楽を言語やコミュニケーションの形態から捉え、その意味作用を感受・表現に生かすという考え方に基盤を置いてきた。その上でテアートルロ (舞台) を捉えると、それは色彩や図形、声、ことば、身体、音・音楽など、様々な表現言語の共演によって生成すると言えるが、そのような多角的、総合的に進められるテアートルロ教育において、音楽言語が他の表現言語と関わってどのように生かされるのか、先述の共有体験の「場」と関連して、イタリアの事例から考察する。

(3)研究の方法

①情報収集・文献研究

1) イタリアの教育改革および芸術教育振興に関する行政の取り組みについて

2) イタリアのテアートルロ教育の歴史、理念、方法、実践について

3) イタリアの自治体、文化振興財団、劇場、学校連携によるテアートルロ教育プロジェクトについて

②現地調査

1) ロンバルディア州教育研究所 (Nucleo Territoriale della Lombardia-Agenzia Nazionale per lo Sviluppo dell'Autonomia Scolastica 在ミラノ) のテアートルロ教育推進プロジェクトについて

2) ロンバルディア州の小中学校におけるテアートルロ教育活動について

3) 大学の教員養成課程のカリキュラムとテアートルロ教育関連授業について

4) イタリアの教育者、研究者との共同研究の推進

本研究で「テアートルロ教育」は、創造性や美的感性を養うことを目的とした一般教育における幅広い教育活動を対象とする。

2. 研究の進捗状況

2009年3月から4回にわたり、ロンバルディア州において、教員養成課程を持つ大学や州教育研究所の取り組み、および地域と学校連携によるプロジェクト活動について下記の通り調査した。

(1)第1回調査(09年2月28日～3月11日)

①ロンバルディア州教育研究所を訪問、同州

学校と地域におけるテアトロ教育推進プロジェクトについて調査。

②ミラノ・カトリック大学教育科学部の授業「ドラマトゥルギー」、および同大学のマスターコースの研修活動を参観、授業者 G.Oliva 教授と研究交流。

(2)第2回調査(09年5月16日～26日)

①ミラノ県第60学区でテアトロ教育プロジェクトを推進する、文化協会<少年たちの舞台>主催の第22回大会に参加。子どもたちの舞台表現の実際を観察。

②同学区の Oreno 市 Don Zeno 中学校および Concorezzo 市 Don Gnocchi 小学校のテアトロ教育活動を参観、指導内容・方法を把握。

(3)第3回調査(09年10月24日～11月4日)

①ミラノ・カトリック大学教育科学部マスターコース<テアトロ表現性による創造性と人間的成長>において講義(10月31日)。

②第60学区小中学校でテアトロ教育活動を参観、中学校では「日本の学校教育の現状」についてレクチャーを行った。

(4)第4回調査(11年3月3日～21日)

①ミラノ・カトリック大学教育科学部マスターコース<語りとテアトロ表現相互による教育方法の実践>においてワークショップ形式の講義を行った(3月5日)。

②国立ミラノ大学・ピッコカの教育科学部の授業「音楽と音楽教育」を参観。

③同大学同学部において開催されたセミナー<音楽テアトロ：日本とイタリアの初等教育における実践と研究>(イタリア音楽教育協会ミラノ支部・国立ミラノ大学共催)で講演、参加者と議論(3月14日)。

④イタリア音楽教育協会ミラノ支部長で『音楽テアトロ』(*Il Teatromusicale, Ipc, Milano 2006*)の著者である P.Bove 氏と研究課題について議論、情報交換を進めた。

⑤ロンバルディア州教育研究所推進プログラム<プロジェクト音楽 2020>の動向を調査、今後、同研究所研究員らと音楽教育に関する共同研究を進めていくことを合意した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

情報収集、文献による事前研究とロンバルディア州での現地調査により、イタリアのテアトロ教育の現状について十分に把握し、関係者らと継続的に研究交流を進めている。また本研究内容は、小学校教員対象の研修会等で実践的に応用されている。

4. 今後の研究の推進方策

子どもたちが身体、動き、ことば、音・音楽、ドラマを通して様々な場を共有しながら

伝達・表現するというイタリアのテアトロ教育実践は、そのプロセスにおいて情動、認知、表現、コミュニケーションの局面を相関的に捉え、表現力を段階的に引き出していく注目すべき取り組みである。本教育の視点をふまえ、音楽分野に特化した「音楽テアトロ」についてイタリアとの研究交流を促進し、日本の音楽教育に対して新たな提案ができるよう考察を深める。研究成果は、教員養成課程授業や教員研修の内容に活用する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

①中嶋俊夫、小学校音楽学習指導要領の理念「思いや意図をもって」をどう捉えるか—小学校教員対象の研修(神奈川県立総合教育センター主催)の取り組みを通して、横浜国立大学教育人間科学部紀要 I (教育科学)、No.13、pp.111 - 128、2011年、査読無

②中嶋俊夫、イタリアの舞台表現教育の動向と創意—ロンバルディア州ミラノ県の取り組みを中心に、横浜国立大学教育人間科学部紀要 I (教育科学)、No.12、pp.119 - 134、2010年、査読無

[学会発表](計 5件)

①中嶋俊夫、音楽テアトロ：日本とイタリアの初等教育における実践と研究、イタリア音楽教育協会ミラノ支部・国立ミラノ大学共催セミナー、2011年3月14日、国立ミラノ大学(ピッコカ)教育科学部、ミラノ

②中嶋俊夫、イタリアの学校における表現教育の新しい展開—テアトロ教育と音楽教育の2つの視点から、イタリア学会第58回大会、2010年10月23日、大阪大学・豊中キャンパス

③中嶋俊夫、イタリアの小中学校におけるテアトロ教育の現状と創意、星美学園短期大学日伊総合研究所研究会、2010年2月22日、星美学園短期大学

④中嶋俊夫、イタリアの舞台表現教育の動向と創意—ロンバルディア州の取り組みを中心に、日本音楽表現学会第7回大会、2009年6月14日、宮城教育大学

⑤中嶋俊夫、音楽表現が生きる「場」の形成についての一考察—イタリアの舞台表現教育に示唆を求めて、日本音楽教育学会第39回大会、2008年11月9日、国立音楽大学

[図書](計 1件)

①中嶋俊夫、宮野モモ子、本多佐保美他、教育出版、小学校音楽科教育法—創造性あふれる音楽学習のために、2009年、pp.88-96